

平成 2 4 年 2 月 2 8 日

国内種雄牛 2012 - 2 月以降の遺伝的能力評価に係る変更点

評価に採用する記録の拡充

牛群検定事業において、交互性を保った AT 法（3 回搾乳）の運用が昨年 4 月から開始されたことに伴い、5 月以降の国内雌牛評価への記録の採用条件に同検定法の記録を追加していますが、昨年 9 月に行われたインターブルによるテストランの結果、国際評価上、同検定法の記録の追加について問題のないことが確認されたので、本年 2 月以降の国内種雄牛評価にも採用いたします。

交互性を保った AT 法（3 回搾乳）

- ・ 1 回検定法：毎月の立会検定を、[朝 - 昼 - 夜 - 朝 - 昼 - 夜] のように一定の順序で行う方法
- ・ 2 回検定法：毎月の立会検定を [朝昼 - 昼夜 - 夜朝 - 朝昼 - 昼夜 - 夜朝] のように一定の順序で行う方法